

人がロボットに突然つかまれて金属プレートに押し当てられて死亡するという痛ましい事故が海外で起こった。もっとも、このロボットはダビンチなどではなく、大手自動車工場での工業用ロボットによる事故である。普段とは異なる特別な状況下で起きた事故であるが、さっそくインターネット上では責任の所在などがどこになるかなど医療事故をほうふつとさせる問題が話題となっている。翻って手術室を考えてみるにダビンチなどのロボットの進化が外科手術の領域に着々と影響を及ぼしている。そこで、この事故のニュースを聞いてふと考えた。一般に、医療用機器は厳しい品質管理のもと現場に届けられ、特に動力を伴うものではかなりの安全性が確保されている。とはいっても、我々が普段から正常に作動すると考えているデバイスやロボットが誤作動する可能性は完全にはゼロにできないであろう。今回のような事件のニュースを聞くとも手術機械の進化の将来にはSF小説のような制御不能な機械の暴走が起きるのではないかと変な心配をしてしまう。しかるに、実際には誤作動した場合のことを考えて手術をすることは少ないのではないかと。やはり、手術の進化のためにはリスク管理が重要で、エラーを可能な限りゼロにする努力とエラーが起きた時の対処のトレーニングを普段から積んでおくということが必要である。

一方このようなリスク管理の対極として、電気や動力で駆動する機械に頼らない手術、すなわち、外科医の原点としての基本的な手術手技を常に向上させておく必要がある。その意味では本会誌の果たしている役割は大きいと考える。本会誌には会員の先生方の投稿により、基本的な鉗子を用いた魅力的な創意工夫や電気や動力に頼らずに手術を向上させる器具の開発などが原著論文や症例報告に交じって掲載される。これらの論文を読んだ先生方が更なる改良や工夫をなされることにより、ある意味ローテクかも知れないが安全で効率的な医療につながると考える。本会誌の発展と会員への利益のためにも、優れた工夫や開発はローテクであっても今後とも積極的に投稿していただきたいと思います。

(大須賀穰)

日本内視鏡外科学会雑誌

(第20巻 第5号) 2015年9月15日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

(1部) 定価：本体 2,800 円 + 税 *会員には毎号送付されます。

2015年 年間購読料：冊子版 16,380 円 + 税、電子版/個人 16,380 円 + 税、電子版/共有 18,840 円 + 税、冊子 + 電子版/個人 19,380 円 + 税、冊子 + 電子版/共有 21,840 円 + 税 (配送料：医学書院負担) *会員には冊子版が毎号送付され、学会ホームページから電子版が閲覧できます。

編集・発行：日本内視鏡外科学会 (代表：北野正剛)

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-2 大同生命霞が関ビル 18 階

日本コンベンションサービス株式会社内

☎ 03-3503-5917 Fax 03-3508-1302 E-mail: jses@convention.co.jp (担当：野上)

http://www.jses.or.jp

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 18 F-1-4-2 Kasumigaseki, Chiyodaku

Tokyo, 100-0013, Japan ©2015, Printed in Japan

発売：(株)医学書院 (代表：金原 優) (本誌担当：水野、安部) http://www.igaku-shoin.co.jp/

http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jses/

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 / E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷(株) ☎ 03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎ 03-3817-8036 (Fax 03-3817-8044)

・本誌に掲載する著作物の複製権、上映権、公衆送信権、翻訳・翻案権、二次的著作物利用権、譲渡権等は日本内視鏡外科学会が保有します。

・JCOPY (社) 出版者著作権管理機構 委託出版物) 本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、(社) 出版者著作権管理機構 (電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。

●原著

80 歳以上の高齢者における腹腔鏡下胃全摘術の安全性に関する検討 荻野利達・他 九州病院外科
腹腔鏡下胆嚢摘出術における術前経口補水療法の前向き比較研究 須藤隆之・他 盛岡市立病院外科
腹腔鏡下胃切除術における肝挙上法と術後早期肝障害に関する

検討 高田暢夫・他 国立がん研究センター東病院胃外科
腹腔鏡下肝切除術 difficulty scoring system の検証 藤 浩明・他 京都大学肝胆脾・移植外科

●症例報告

難治性再発性胃出血に対して腹腔鏡補助下幽門側胃切除術を施行した

遺伝性出血性毛細血管拡張症の 1 例 脇 悠平・他 愛媛県立中央病院消化器外科
腹腔鏡下盲腸固定術が有効であった移動性盲腸の 1 例—本邦報告例の検討と

ともに 砂川祐輝・他 中濃厚生病院外科
腹腔鏡補助下結腸亜全摘術を施行した特発性腸間膜静脈硬化症の 3 例 平野利典・他 広島記念病院外科
妊娠 15 週の妊婦に対し腹腔鏡下虫垂切除術を施行

した 1 例 松浦記大・他 大阪府立急性期・総合医療センター消化器外科
腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術（TAPP 法）後 6 年で発症した遅発性メッシュ

関連膿瘍の 1 例 宮木祐一郎・他 聖隷浜松病院外科
左閉鎖孔に発生したリンパ管腫に対し腹腔鏡下切除を行った 1 例 岡田倫明・他 市立宇和島病院外科
喉頭切除後に発生した胸部食道癌に対して胸腔鏡下食道切除・

胸腔内吻合を施行した 1 例 木下裕光・他 神戸市立医療センター中央市民病院外科
冠動脈バイパス術後に発症したびまん性胃前庭部毛細血管拡張症に

対して腹腔鏡下幽門側胃切除術を施行した完全内臓逆位症の 1 例 藤田 剛・他 浜松医療センター消化器外科

●手術手技

縦隔神経鞘腫に対する胸腔鏡下被膜内核出術 稲福賢司・他 神奈川県立循環器呼吸器病センター呼吸器外科
但し誌面の都合により変更がございます。ご諒承ください。